

本の紹介



岩波新書
1759

〈いのち〉とがん

患者となって考えたこと

岩波新書 本体 820 円 + 税
ISBN 9784004317593

著者は 1960 年生まれ。東京大学卒業後NHKに入局し、ディレクター、プロデューサーとして福祉、医療、教育をテーマにして様々な発信を続けた人です。その彼女に突然の膵臓癌の宣告。膵臓癌の5年生存率は低く「絶体絶命」の状態に彼女は置かれたのです。

そして彼女の闘病が始まります。今までは外側から医療や福祉を見てきた彼女が今度は当事者として病と向き合わなければならなくなってしまいました。彼女は自分が置かれた状態をこの本の序章で「ジェットコースターの始まり」と治療の開始時を表現しています。手術に挑み、抗がん剤治療も行い癌の縮小に喜び、一時は職場への復帰もカウントダウン。が、再発と再手術。それでも彼女は自分の病を冷静に見つめこの本を世に出しました。そしてその営みの中で医療に求めるもの、患者同士の中にある生き抜くための知恵と勇気の共有の場の大切さ、「死の受容」なんて当事者には違和感だらけであることなどを赤裸々に語って下さっています。支援者はともすれば「評論」でその人を「わかった」ような気になってしまいます。でも自分が当事者になればまったく違った世界がある。この本は支援にあたる者の気づきの本です。

そして病と闘う人へのエールでもあります。

認知症介護

ヘルパー日常 パート1

認知症一人暮らしのMさん
一人暮らしももう5年目です。

記憶は薄れていきますがトイレはしっかりと失敗なくできていました。ですが、近頃ゴミ箱やバケツに放尿していることがあり、時には玄関で放尿し家の中が尿臭ですごいことなども…担当ヘルパーたちはトイレの場所がわからなくなったのかも？と…トイレのドアに「トイレはこちらです」と張り紙をしました。ですが、バケツのような入れ物があれば放尿する始末…時には大きな方も…ヘルパーたちは悩み話し合いました。そのことをケアマネージャーに相談し、トイレ誘導の回数を増やしてみようということになりました。

ある日、トイレ誘導の際にヘルパーが「Mさん、トイレへ行こうか？」と話しかけるとキョトンとした表情のMさんが「どこへ行くの？どこかへ出かけるの？」と…ヘルパーは気づきました(☆。☆)!!! Mさんは「トイレ」という言葉が判らなかつたのです。

その後すぐに「おしっこに行こう」と言うと「はい」と良い返事。トイレで用を足すことができました。ヘルパーはすぐに《おしっこは、ここです》と言う張り紙に変更しました。

Mさん、判ってくれるかな…？

有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイツ東台101号
TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com